

# 更生施設しのばず荘 保護施設通所事業 (定員:通所30人・訪問10人) [平成29年度事業報告]

## 1 事業総括

今年度は、生きがいづくりと社会参加の機会提供に尽力し、利用者の満足度向上を図った。歴史ある台東区を感じられる外出行事や、更生施設機能を活用した作業を開始、各種グループワークへの参加もこまめに働きかけた結果、行事参加平均10名以上、通所事業新規利用者19名、延長利用者14名、訪問事業新規利用者3名と安定した利用数を確保することができた。

更生施設利用時から地域生活を見据えた目標設定を行い、社会復帰促進事業(10名)・ステップハウス事業(9名)と通所事業を併用する事で段階的な地域移行を支援した。更に今年度要領を改めOB支援事業(6名登録)を開始、通所事業終了後の方たちを中心に地域生活定着を目指し緩やかな支援も開始した。

今後の課題としては通所事業・OB支援事業利用者が増える中で、利用者が活用できる作業プログラムの充実やステップハウス待機者解消を図ることがある。限られた施設空間の中で解決が難しい面もあるが、次年度は職員の創意工夫で事業の更なる充実を図っていく。

	定員		29年度実績 新規開始数(対定員利用率)						28年度実績 新規開始数(対定員利用率)						
	通所	訪問	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
通所	30人		29	27	29	32	31	31	32	30	30	29	29	29	29.8
訪問	10人		2	1	1	1	1	1	2	4	4	4	4	3	2.3

## 2 主要目標に対する成果

### (1) 通所・訪問事業による居宅での地域生活安定に向けた支援

金銭管理や就労支援、服薬管理等、利用者ニーズに合わせた個別的支援を実施。月1度のグループミーティング(通所訪問会議)の中で利用者情報の共有や事業改善など活発な意見交換を行い、利用者の小さな変化に迅速且つ臨機応変に対応できる体制作りを行った。

### (2) 更生施設機能を活用したサービスの提供

更生施設合同行事・トライワーク・切手整理ボランティアなどの日中活動により、生きがいや楽しさを提供。食事・入浴サービスなど施設機能を活用したサービスも行った。

### (3) 支援プログラムの充実と地域社会資源等の開拓と利用促進

毎月開催の茶話会で季節行事やプログラムの内容を利用者と話し合い、ニーズに合わせた企画を心がけ風通しのよい事業運営を行った。また福祉事務所説明会等でのPRを行い利用促進を図った。

### (4) OB支援、地域の生活困窮者支援実施

OB支援事業の要領を改定。通所訪問事業の各種サービス利用や行事参加等により、通所事業終了後も潤いや彩りある地域生活を送ることができるよう継続した支援を行った。

## 3 運営管理

・施設合同行事40回、外出行事9回、通所茶話会等所内行事16回開催し、参加人員は延べ221名と、前年度より大幅な増加となった。

・重複した課題を抱える利用者においては、更生施設入所時より社会復帰促進事業やステップハウス事業の利用を見据えた支援プランを提示し、通所訪問事業利用につなげた。

・安否確認期間を5日間隔とし、異変を早期に把握、地域生活での危機回避のため、緊急訪問など関係機関と連携した迅速な対応を行った。

・毎月発行する「かわらばん」には、季節を感じられる絵や写真を添えて、各種行事・プログラムの報告やお知らせを掲載。「ポストを開けるのが楽しみ」との声もよせられ、利用者から好評である。

・通常健康・栄養相談に加え、栄養士や看護師など同行による居宅訪問を実施、自炊や衛生保持に課題を抱える利用者への個別支援を実施した。

・厨房工事により閉鎖していた通所室を再開。ソファや観葉植物を置き、飲み物サービスも開始。通所しやすく居心地のよい空間づくりを行った。

・栄養士と実施している調理食育教室では、実生活で活用できる「レンジレシピ」や「100円ショップメニュー」など、毎回工夫した内容で企画し地域生活安定の一助とした。

・昨年度から準備した押し花教室を実施、しのばずブランドを目指し第一歩を踏み出した。

・伝統工芸体験教室など、芸術文化の栄えた台東区に相応しい行事を企画実施。地域在住の講師をお招きし地域とのつながりを深める事もできた。